

なるほど・・・お二人ともさすがなお考えだなあと感心させられます。

特に共感したのはひろゆきさんの回答でしょうか。

ひろゆきさんの回答の後にてい先生も共感しつつ動画の中で語られていますが、子どもに対峙する大人は“没頭させたくない”というケースが少なからず存在するなと感じます。それは保育者であっても同じで“いろいろなことに興味関心を持ってほしい”という思いから生まれてくる大人側の感情でもあるかなと思います。

教育という観点では一理あり、就学後も多岐にわたる教科教育カリキュラムを用意するのもそうした理由が存在します。“幅広く様々なジャンル、要素を経験し、その中から自分に合ったものや好きなことを発見してほしい”そんな大人としての願いがあるのだと思います。

それは大人の子への愛ゆえの自然で理にかなった論理、手法でもあるのですが、一方で近年では“没頭できる”ものがあるということが子どもの遊びや学び場面では高く評価されています。保育の世界でも“いかに没頭できるか”は遊びの課題として近年大切にされているテーマです。ひろゆきさんの論理はその理由の一つとしても考えられると思いますが、没頭できるということはその子(人)にとって非常に多くのプラス効果をもたらします。その子(人)の強みや個性にもつながりますし、実は没頭の過程の中に“さまざま”な経験要素が含まれますので、結果その子(人)の得られる学びは非常に豊かなものになります。

“没頭できる”とても大事で深いですね！

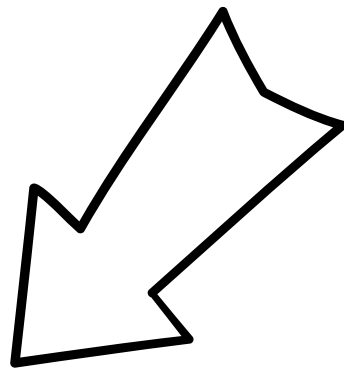
しかし・・・

私(園長)の考える「子どもが幸せになるために必要なスキルを1つ挙げるとしたら？」の答えは違います

園長
「好き、と楽しいを
見つける、作り出
せる力」



- この価値、感覚があることで生活や人生が非常に豊かになり、ちょっとしたことで幸せを感じることができるようになるなと感じております。



保育を通して子どもの成長を願う時に大切にしていることにも通ずるのですが、その子がおじいちゃん、おばあちゃんになって天寿を全うするとき

「ああ、この人生悪くなかったなあ・・・」
と思える人になってほしいと願い、将来を想像して関わっています。



それにはその時々で人生を楽しみ、困難があってもその子（人）なりに乗り越えたり、ときに受け流したりしながら、その時々状況にある程度満足しながら人生を歩む・・・そんな力が必要なんだと思っています。



それはいかに“様々な物事を楽しむことができるか”ということと同義であると信じていますし、“好き”であることがその物事や人との関わりにおける喜びとなり、つまり楽しさにつながるのだと思います。



時に困難や、嫌な事、人に遭遇することも人生にはあります。（時に・・・というか困難の連続である場合も・・・）そんな時、それ乗り越えていくにはそれと向き合い、戦う強さも大切ですが、むしろその原動力となるのは好きや喜び、楽しさに向かう、望む、“意欲”ではないかと思っています。

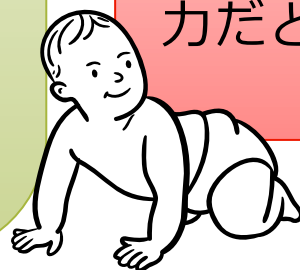
好き、や楽しさは見つければそれに越したことはありませんが、見つからないと困りものです。そんなとき、自ら作り出せる力を持てたとしたら、それは最強と言えるでしょう！



新入職の新人研修の場面でも“保育者に求めること”として「うれしい、楽しい、だいすきを子どもと一緒に探し続けられる」ことをお話します。

（ドリカムの曲にもそんなタイトルのものがありますね（笑））

子どもがそんな力を身に付けていくためには・・・うれしい、楽しい、大好きを探していくには、先ず大人がうれしさを表現したり、楽しみを持ったり、大好きなものは大好きと表現したりしていくことが何より大切で、その姿を通して子どもは“好きということ”“楽しいということ”“うれしいということ”を学び、獲得していくのだと思います。



そんな思いから、“子どもが幸せになるために最も必要なスキルを挙げるとしたら”それは好き、と楽しいを見つける、作りだせる力だと思います。

